

淡江大學 102 學年度碩士班招生考試試題

18-1

系別：日本語文學系

科目：日文(閱讀、作文、中日互譯)

考試日期：3月10日(星期日) 第2節

本試題共五大題，三頁

本試題雙面印刷

一、下の①～⑳の中から最も適当なものを選んで、下記問題の()に記号で書き入れなさい。答案用紙には記号だけを書きなさい。(1%×15=15%)

- 1、たいした勉強もしないうちに、()に大学を卒業してしまった。
- 2、弟を迎えに行ったはずのところ自分も上りこんでしまっは、()のようなものだ。
- 3、あの時無理をして買ってあげればよかったのに、()と悔まれる。
- 4、あの男が優勝してみせるなんて、()ようなことを言うね。
- 5、若い頃は、美人だと騒がれていた彼女だったが、30年ぶりで会ってみると、今や()。
- 6、一度公金に手を付けたら、()とばかりに、ついに、1万円も使い込んでしまった。
- 7、禁煙をしたものの、人が吸っているのを見ると、()吸いたくなる。
- 8、公共料金の値上げが、インフレにいつそう()ことになった。
- 9、会費の不足分は()。
- 10、()で、会社の近くにこんな静かな公園があるとは知らなかった。
- 11、食べ物の好き嫌いなどは()だから、人に無理強いするのはよくない。
- 12、人の出入りが多かったので()が、一人になったらどっと寂しさがこみ上げてきた。
- 13、年に一度の祭礼で、神社の境内は()ような混雑だ。
- 14、予算より1万円ぐらい()が、予備費でまかなった。
- 15、仕事もしないで分け前を主張するなんて、()男だ。

- | | | |
|------------|----------------|-----------|
| ①毒を食らわば皿まで | ②見る影もなかった | ③気がまぎれていた |
| ④ところてん式 | ⑤油断大敵 | ⑥虫がいい |
| ⑦臍で茶を沸かす | ⑧ミイラ取りがミイラになった | ⑨泣き面に蜂 |
| ⑩灯台下暗し | ⑪逃がした魚は大きい | ⑫自腹を切る |
| ⑬焼け石に水 | ⑭借りてきたねこのような | ⑮芋を洗う |
| ⑯足が出た | ⑰拍車をかける | ⑱十人十色 |
| ⑲両手に花 | ⑳喉から手が出るほど | |

二、次の文章を読んで、質問に答えなさい。

1、次に続く文を予測し、一番適当だと思うものを選びなさい。(1%×2=2%)

- (1) 治は毎朝ジョギングをすることにしている。今朝もしようと思って外に出たが、雨が強く降っていてとても走れそうになかった。天気予報では午後にはやむということなので、()。

背面尚有試題

淡江大學 102 學年度碩士班招生考試試題

178-2

系別：日本語文學系

科目：日文(閱讀、作文、中日互譯)

考試日期：3月10日(星期日) 第2節

本試題共五大題，三頁

a. 今日はジョギングはしないことにした。

b. 朝ごはんを食べた。

c. 大学から帰ってきてから走ることにした。

(2) 野菜しか食べない人たちのことを日本語でもベジタリアンと呼ぶ。ベジタリアンといってもいろいろで、肉は食べないけれど魚は少し食べるという人もいれば、()。

a. 何でも食べるという人もいる。

b. たまごさえ食べないという人もいる。

c. ビタミン剤を飲むという人もいる。

2、次の文を意味が通るように並べ換え、() の中に順番の数字を入れなさい。答案用紙には記号だけを書きなさい。(1%×8=8%)

() 彼は1905年にスイスのチューリッヒ大学を卒業した。

() 1933年に彼はドイツを離れてアメリカに移住した。

() アルベルト・アインシュタインは1879年にドイツで生まれた。

() そして1919年にノーベル物理学賞を受賞した。

() ヒトラーの率いるナチスドイツの迫害を受けたからだ。

() 1919年から1933年にかけてはドイツに住み、いろいろなところを旅行した。

() 1933年から死ぬまで、彼はニュージャージーのプリンストンに住み、

() 卒業した同じ年に有名な相対性理論につながる基本を発見した。

(9) 1955年4月18日に死んだ。

三、次の文を読んで、あとの問題に答えなさい。

畑で野菜を作っていると、土は働き者だとよくわかる。猫の額ほどの(①)借地ながら、夏に冬に多彩に実らせてくれる。ひとくちに野菜畑と言っても季節によってたたくまいは違う。緑の盛んな夏に比べて冬の畑は地味でつましい。

大根も白菜も、一心に冬日を浴びているように見える。寒い畑でじりじりと育ち、土の(②)滋養をたっぷり取り込んでこそ味わいが増すと、いつか記事で読んだことがある。

(③) 白根の長い根^{ねぶかねぎ}深葱も冬の畑の光景だ。抜いてきた太いのを親指ほどの長さに切る。表面が黒く(④)焦げるまで網で焼いて、(⑤)表皮を(a)むく。かつお節としょうゆで舌にのせれば、芯までとろけ出してくる。飯に酒に、しみじみと味は深い。

冬の野菜は寒さを感じてきゅっと身を守り、甘みが増すのだという。だが今季は寒くて(⑥)縮こまりすぎたのか、(⑦)高値の報が各地から聞こえてくる。白菜など、産地によっては(⑧)昨季の倍近い(⑨)値で鍋好きを悩ませる。

淡江大學 102 學年度碩士班招生考試試題

78-3

系別：日本語文學系

科目：日文(閱讀、作文、中日互譯)

考試日期：3月10日(星期日) 第2節

本試題共 五 大題， 三 頁

〈寄鍋やたそがれ頃の雪もよひ〉杉田久女。しんしんと雪の降る夕べや、北風が(10)裸木を鳴らしていく夜は、ものの煮える音がごちそうになる。鍋を囲むうれしさは、たぎる音と立ちのぼる(11)湯気。たっぷりの冬野菜なしには始まらない。

筆者の作る畑も、この冬は(12)霜柱の立つ日が多い。(13)素人が言うのも何だが、人事を尽くしてなお天気を頼むしかないのが農業の厳しさだろう。気象図には縦縞が並び、日本海側は荒れた空模様が続いている。雪の深さを案じつつ、(14)寒明けまでの日数を指折りかぞえてみる。(2013・1・27 朝日新聞・「天声人語」)

1、①～⑭の言葉の読み方を書きなさい。(1%×14=14%)

- | | | | | |
|-------|-----|-----|------|-----|
| ①借地 | ②滋養 | ③白根 | ④焦げる | ⑤表皮 |
| ⑥縮こまり | ⑦高値 | ⑧昨季 | ⑨値 | ⑩裸木 |
| ⑪湯気 | ⑫霜柱 | ⑬素人 | ⑭寒明け | |

2、(a) の言葉を漢字に書き直しなさい。(1%×=1%)

(a) むく

3、下線部の文章を中国語に訳しなさい。(30%)

四、次の中国語に当たる日本語の諺を書きなさい。漢字に振り仮名をつけなさい。

(2%×5=10%)

- 1、有朋自遠方來不亦樂乎
- 2、恩將仇報
- 3、見賢思齊
- 4、在家一條龍，出外一條蟲
- 5、高不成低不就

五、作文 (20%)

修士の学位は就職に有利かどうか、あなたの意見を200字程度で述べなさい。